

『イエス様のバプテスマ・1』

'20/03/01

聖書箇所: マルコの福音書 1 章 9 節 (新約 p.64)

皆さんは、もうバプテスマを受けられたでしょうか？…私は、皆さんもご存知の通り、日本のご普通の家庭で生まれ育ちましたので、「バプテスマ」なんていう言葉を、ほとんど聞いたことがありませんでした。「バプテスマ」、別の言葉で言い換えますと、「洗礼」とも言い得る、一種に儀式になりますけれども…、私は教会に通い始めた頃、バプテスマの何たるかを知らずにいたので…、信仰を持った後でも、一時期、「よし、俺は、バプテスマを受けないで、教会生活を送ってやろう！バプテスマを受けないで、どこまで、やっていけるか挑戦してやるんだ！」みたいな…、愚かなことを考えている時期もありました。

正直、今日、私たちが、これから学ぼうとしている「イエス様がお受けになったバプテスマ」というものと、私たちが受けたバプテスマとは、いろんな意味で違ったものでありますが…、でも、私たちが、ちゃんとした“意味”を理解できていないと…、「あー。バプテスマというのは、お水の中に浸かるんだー！」というような表面的なことだけしか理解できず…、せっかく、天の神様が、この聖書のみことばを通して、私や皆さんに教えようとしてくださっていることを、ほとんど何一つ理解できず…、また、この聖書の真理に触れることもできないし…、何も変わりません！

命題: イエス様がお受けになったバプテスマは、どういったものだったでしょう？

当然のことながら、そこには、何の祝福も喜びも無いでしょう…。ですから、どうぞ、今日このメッセージを聴いてくださる皆さんには、今から、約 2000 年前に、イエス様がお受けになったバプテスマが、一体、どういったものであったのか？どうか、そのことを、しっかりと理解して下さいますよう…、そうして、そのことが、自分とどういう関係があるのか？今の自分と、どのような係わりがあるのか？というようなことを、よくよく考えていただきたいと思えます。

どうぞ、まずは、今回の聖書のみことばを見ていきたいと思えます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ 1:9-13 をお開きください。そこには、このように記されてあります。

- 9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。
- 10 そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。
- 11 そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」
- 12 そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。
- 13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。

I・それは、謙遜の証しであった！（9 節）

どうぞ、まずは、今読んだ9節の部分に注目をしていきましょう。そこでは、イエス様が、あの先駆者ヨハネから、バプテスマをお受けになった、ということが記されてあります。…このことから、聖書のみことばは、何を教え…、私たちは、何を学ぶことができるのでしょうか？⇒それは、まず、このイエス様がお受けになったバプテスマが、“謙遜”の証しであった！ということです。

●イエス様は、先駆者ヨハネから、バプテスマを受けてくださった！

どうぞ、皆さん…。まず、考えてみてください…普通、誰からか、バプテスマを“授けてもらう”って言うのは、どちらが目上と言うか…、どちらが、優位な立場にいます？⇒普通に考えたら、バプテスマを

授ける側ですよ！…しかも、この時点で、バプテスマのヨハネは、もうある程度、有名になっていて…、そのヨハネからバプテスマを受けたくて、当時、イスラエル中から、たくさんの者たちが集まってきた、ということマルコは教えるわけで…、それに対して、この時点でのイエス様は、まだ、公の生涯に入っていないで、当時、イエス様のことを知っている者は、ほとんど、おりませんでした。そうでしょ？

また、この時、イエス様は、このヨハネからバプテスマを受けるまで、ガリラヤのナザレにおられました。…ということは、イエス様は、この時、このヨハネからバプテスマを受けるために、わざわざ、ガリラヤのナザレから、この当時、ヨハネがいたヨルダン川の辺りまで出てこられたのです。多分、距離で言うと、100km以上です。

皆さん、どう思います？…もしも、イエス様が、このヨハネからバプテスマを受けるだけが目的であったら、イエス様は、ご自分がヨルダン川まで行かれるのではなく…、このヨハネの方を、何とかして、ガリラヤまで引き寄せることは、不可能だったのでしょうか？⇒いいえ！不可能ではありません。…にも関わらず、イエス様の方から、このヨルダン川まで来てくださったのです！…つまり、ごく当たり前のことですが、この時、イエス様は、ご自分の意志で、あの先駆者ヨハネから、“バプテスマ”を受けてくださった、ということです。

でも、皆さん、覚えてくださっています？…この時、ヨハネが授けていたバプテスマは、「悔い改めのためのバプテスマ」であつたでしょ？…どうぞ、少し前の、マルコ1:4をご覧ください。その後半には、こう書かれています、『(ヨハネが) 罪の赦しのための“悔い改めのバプテスマ”を宣べ伝えた』って…。どうぞ、今度は、少し前のマルコ1:2-3もご覧ください。そこには、こうあります、『2 預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を整えさせよう。3 荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』』…』って…。良いですか？皆さん。…この時、ヨハネが人々に授けていたのは、あくまでも、救い主であるイエス様の道を整えるため！イエス様のことを受け入れる準備のため…、悔い改めのバプテスマを授けることであつたのです！そうでしょ？

だから、前に皆さんと一緒に見たように…、使徒19章には、当時、エペソの町にあつて、「バプテスマのヨハネのことは知っているが…、しかし、イエス様のことは知らない…」と言っていた者たちが、パウロからイエス様のことを初めて聞いて、救われた！というエピソード(使徒19:1-7)がありましたでしょ？

でも、皆さん。どうぞ、考えてみてください…。果たして、イエス様は、このヨハネから、何かバプテスマを受ける必要性があつたのでしょうか？…言い換えれば、イエス様は、救い主が来るための“準備”を、何かする必要性があつたのでしょうか？…あるいは、イエス様には何か、悔い改めるべき“罪”があつたのでしょうか？

⇒いいえ…。皆さんもご存知のように、イエス様には、一切の罪がありませんでした。…ということは、イエス様には、何一つ、悔い改めるべき罪もありませんでした。もちろん、イエス様が救い主を迎えるための準備をする必要もありませんでした。…と言いますのは、救い主を迎えるも何も、イエス様ご自身が、救い主であられたからです。そうでしょ？

皆さん、ここが、イエス様が受けられたバプテスマの難しいところです。…と言いますのは、この世の中で、イエス・キリストという特別なお方に並ぶような…、不思議な存在は、イエス様以外には居ないからです。そういうことについて、テモテは、こう証言してくれています、『神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であつて、それは人としてのキリスト・イエスです。』(I テモテ2:5)って…。このイエス様は、私たちのような、普通の人間とは違います。イエス様は、唯一真の神様が、この世に遣わしてくださつた…、神様と私たち人間とを結ぶ、唯一の仲介者…、唯一の救い主なのです！

じゃあ、一体なぜ、イエス様は、バプテスマを受けられたのでしょうか？⇒どうぞ、今日のみことばの平行記事である、マタイ3:13-17をお開きくださいますか？『13 さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。14 しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」15 ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がった。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」』

⇒ご覧のように、このみことばは、今日私たちが学んでいるみことばと同じ出来事が、マタイの視点で記されています。…そのマタイによると、イエス様がヨハネからバプテスマを受けようとした時、最初、ヨハネは、それを一旦断つたと記されています。14節の前半、『しかし、ヨハネはイエスに“そうさせまい”として、言った。…』という部分がそうです。

皆さん、覚えてくださっていますよね？…以前学んだように、このヨハネは、神様が、あの預言者エリヤの再来として、天の神様が、約束の救い主であるイエス様の先駆者として遣わされたような人物です。マタイ11章で、イエス様は、『女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより“すぐれた”人は出ませんでした。…』ということをおっしゃっておられます。…このヨハネは、それほど、偉大な人物であったのです！

また、このヨハネは、イエス様のことを見た時、すぐに、「このお方こそが、約束の救い主であられる！」ということを書き当てました。ヨハネ1章には、その時のことが、こう記されています、『29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。30 私が『私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ』と言ったのは、この方のごとです。』(ヨハネ1:29-30)って…。このように、ヨハネには、神様から、特別な啓示と言うか…、不思議な知恵 & 導きが与えられていたようです。

だから、このヨハネは、イエス様を見た時、こう言ったのです。マタイ3:14、そこで、バプテスマのヨハネは、こう言っています、『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか？』って…。どうぞ、この文章で…、2つのことに注目してください。まず、1つは、『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずです…』という部分で、もう1つは、『あなたが、私のところにおいでになるのですか？』という部分です。

実は、この、『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずです…』という部分は、原語のギリシャ語では、「私こそ、あなたからバプテスマを受ける“必要がある”…」というような表現がなされています。…というのも、ヨハネは、ちゃんとして分かっていました！「このイエス様こそ、救い主である！このお方には、罪が無い！いえ、あなたにはバプテスマなんて必要ありません！悔い改めだって、必要ないはずです！」って…。だから、ヨハネは、イエス様にバプテスマを授けることを、一旦は断つたのです。

しかし、もう1つの、『あなたが、私のところにおいでになるのですか？』という部分…、ここは、読んで分かる通り、疑問文です。この時、ヨハネは、一体、どうして、イエス様が、自分からバプテスマを受けようとしたのか、その理由について…、その必要性について、十分には理解できていなかったのです。

でも、イエス様の方から、「今はそうさせてもらいたい！」と言われて、ヨハネの方は、しぶしぶ？オウケーをしたという感じでしょうか？…どうぞ、皆さん、今度は、ここマタイ3:15のイエス様の説明に注目してください…。ここで、イエス様は、2つの大事なことについて説明してくださっています。1つは、『すべての正しいことを実行する…』という表現と、もう1つは、『わたしたちにふさわしい…』という表現です。

⇒皆さん、分かってくださいますか？…ここで、イエス様は、「私は、悔い改めのバプテスマを受けなければなりません！バプテスマを受ける必要があるのです！」とは、おっしゃってられません。…実は、ここで、『正しいこと』と訳されてある言葉(δικαιοσύνη)は、「正しい(の他)、神様が求める基準、公平…」などを表わす言葉が使われてあります。つまり、ここで、イエス様がおっしゃっておられるのは、それが“正しいこと(=良いこと、「必要」じゃなく)”だから、わたしはバプテスマを受けたい…、とおっしゃっておられるのです。

それと、もう1つ、『わたしたちにふさわしいです…』という表現です。…皆さん、気付いてくださいますか？…ここで、イエス様は、『わたしたち…』という、複数形の表現を使っておられるでしょ？先程も言いましたように、このイエス様というお方は、特別な存在で…、この世の中で、誰一人、イエス様と同じような存在はおられません(次のポイントでも学ぶが…)。

なのに、イエス様は、ここで、『わたし“たち”にふさわしい…』とおっしゃられたのです！…これは、明らかに、イエス様“だけ”のことをおっしゃっておられるのではなくて…、第一義的には、イエス様と、その目の前にいるヨハネを指しています。しかし、イエス様が、バプテスマを願っておられるのは、このヨハネだけなのでしょうか？

もう、皆さんは、よく覚えてくださっています。イエス様は、最後、天へ昇っていかれる少し前に、こう命じられましたでしょ？『19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によって“バプテスマを授け、”20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』(マタイ28:19-20)って…。⇒このように、私たちが、バプテスマを受けることは、イエス様の命令であり…、神の前に正しいことなのです！…ということはつまり、イエス様が、先駆者ヨハネからバプテスマを受けられたのは、私たちが受けるバプテスマの見本であり…、私たちの模範であったとも言えるのです。いえ、バプテスマだけではありません。イエス様は、“謙遜においても…”、また、その他、様々な面において…、いえ、すべてにおいて、私たちの模範であります。

だから、イエス様は、あの最後の晩餐の後、弟子たちの足を洗ってくださった後で、こう教えてくださったのです。『14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするうちに、わたしはあなたがたに模範を示したのです。』(ヨハネ13:14-15)って…。それこそが、イエス様が、わざわざ、このヨハネから、バプテスマを受けてくださった理由です。

●一部の聖書研究者たちの誤解＝イエス様は、先駆者ヨハネの弟子であった？

でも、皆さんは、こんなことをご存知でしょうか？…実は、一部の聖書研究者たち…、あるいは、多くの歴史研究者たちは、今日のみことばに記されてあった、イエス様が、先駆者のヨハネからバプテスマを受けられたのは、イエス様が、この先駆者ヨハネの“弟子”であったからだ！という風に、ごく一般的には考えられています。

…と言いましたのも、普通は…、バプテスマを受ける側よりも、授けた側の方が、先輩であったり…、より優位？目上であったりするからです。実際、この聖書のみことばもまた、イエス様よりも、先駆者ヨハネの方が、若干、年上と言うか…、恐らく、半年ほど、先に生まれたということは、ルカ1章などの記事を見ると分かります。それに、今日のみことばを見ても、イエス様よりも、バプテスマのヨハネの方が、いくらか早く、有名になった？ということが分かります。…ま、そういったようなことから、この聖書のみことばを、間違いの無い…、神様のみことばである！ということ信じない(=信仰をお持ちでない)、一般の人たちは、イエス様が、初めは、このヨハネの弟子であった、という風に考えます。

でも、皆さんは、真実をよーくご存知です！…と言いますのも、聖書のみことばは、明らかに、先駆者であったヨハネよりも、イエス・キリストの方が、はるかに優れている？素晴らしい？偉大なお方である！ということ、何度も繰り返し、教えてくれているからです。そうですね？…じゃあ、一体、どうして、この世の中というか、世間一般では、イエス様が、この先駆者ヨハネの弟子であったなんていうことが、まかり通っているのでしょうか？

⇒それは、この世の中が、聖書のみことばを知らないからです。…実は、私も、その昔、いろんなことを考えて…、いろんな情報を集めようとして、インターネットから、様々な情報を集めている時がありました。でも、たくさんサイトを見て、分かってきましたのは…、聖書について書かれてある、ほとんどのサイトは、実は、聖書のことをよく分かった上で書いているのではなくて…、聖書の、ほんの表面的な矛盾について、「やれ、聖書は間違いだらけである！聖書なんて、神様の言葉じゃない！あんなものは、いい加減だ！」という風に批判しているのが、ほとんどだからです。

だってね、皆さん…。確かに、どこの分野においても、「専門家」と言われる方々がおられますけれども、ここにおられる皆さんだって、聖書を学んで、何年になります？…短い方々は、聖書を学び始めて、まだ、ほんの数年も知れませぬけれども…、長い方は、私も含めて、30年40年以上になるわけでしょう？しかも、毎週毎週…、ある時は、難しい本を読んだり…、また別のある時は、ややこしい文法の話の聞いたり…、偉い先生の講義などを聞いたりしているわけです。そうですね？

つまり、私や皆さんも、ある意味、聖書の研究者であり…、ある意味、専門家であるとも言えるのです。じゃあ、一体なぜ、この世の中には、あまりにも、たくさんの人たちが、聖書のみことばを理解することができず…、聖書を攻撃する人たちが多いのでしょうか？⇒その大きな理由の1つは、まず、この世の中を一時的に支配しているのが、サタン…、悪魔であるからです。そのことについては、今回のメッセージの3つ目のポイント…、また、来週のメッセージで、皆さんと一緒に学んでいく予定です。

また、別の理由は、この聖書のみことばが、神様からのお言葉で…、その多くが、真の神様について…、あるいは、私たちが理解できないことについて、教えてくれているからです。…だってね、皆さん。私たち人間に、「永遠」という概念が理解できます？…確かに、私たちは、「永遠」という概念を、「それは、初めから終わりまでキリが無い…。いつまでも続くことだ！」という風に、何となく、頭では理解することはできます。しかし、それは、本当に、ちゃんと理解できていると言いが得るのでしょうか？

例えば、ヨハネ1:1が教えてくれているような、『初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。』って、一体、どんな状態なのでしょう？…そこには、まだ、何も無く、神様しかおられなかったわけです。…しかし、そこには、「ことば」である受肉前のイエス様だけはおられたのです。…でも、それって、具体的に、どんな状態なのでしょう？…皆さん、想像できます？…それと、創世記1:2が教えてくれているような、『地は茫漠(ぼうぼく)として何もなかった。…』って、どんな状態ですか？まだ、宇宙もなく…、光もなく…、闇も無いって…、一体、どんな状態なのでしょう？…皆さんは、想像できます？

また、聖書は、「神は霊である！」(ヨハネ4:24)ということを教えます。しかし、私たちのような物質を持たないで…、どうやって、物事を考えたり…、あるいは、様々な力を与えたりすることができるのでしょうか？…皆さんは、本当に分かります？…あるいは、三位一体については、どうでしょう？神様には、父なる神、子なるイエス様、そして、助け主なる聖霊という、3つの位格…、つまり、私たちで言うところの人格があるのに、それでいて、神様は、本質的に1つの神様だというわけでしょう？…あるいは、神様の選びと、私たちの選択？について、私たちは、完全に理解できていると言いが得るのでしょうか？…正直、私は、完全に理解できていません。ただ、信仰によって…、あるいは、聖書が教えてくれている範囲内で、理解しているにしか過ぎません。…皆さんだって、そうですね？

例えば、皆さんは、アインシュタインが唱えた「相対性理論」について、説明できます？あるいは、それを理解できています？…実は、私は過去、そういったことが、どちらかと言うと得意分野だったので、その

昔、少しは分かっているつもりでした。でも、それは、ほんと表面的なことをサラッと知っているだけで、本当の意味で分かっているわけではありませんでした…。でも、もしも私がアインシュタインの言っていることが、すべて理解できていたとしたら、私は、アインシュタイン級の天才であると言いが得ます。そうですね？

それと同じように、もしも、私たちが、天の神様のことについて…、完全に理解することができるなら、私たちの知恵は、神様と同等である！と言えないでしょうか？…言えますでしょ？…でも、実際には、天の神様は、わずか1週間で、この世界を造られたようなほど、偉大な御方です。天の神様は、ほんの少しの言葉でもって、私たち人間を造ったり…、病気を癒したり…、嵐を収めたりすることができるわけです。しかも、ほんの一瞬で…。

果たして、私たち人間が、造り主であられる真の神様のことを、“完全に理解する”なんていうことが、できるのでしょうか？…いえ、もしできるのなら、それは、私たちが、真の神様と、そう大差無い、ということではないでしょうか？…でも、実際には、そんなこと不可能です。私たち人間が、真の造り主なる神様のことを、完全に理解するなんてことは、絶対に有り得ません…。そうじゃないでしょうか？

例えば、詩篇139篇のみことばは、こんなことを教えてくれています。『1【主】よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。2 あなたこそ私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。』とあります。何と、天の神様は、私たちが次に何をするか？何を考えているか？ということ、すべて御存知だと言うのです。

それだけではありません。詩篇139篇には、こんなみことばもあります。『8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。』⇒皆さん、聴いてくださいました？何と、天の神様は、天におられ…、と同時に、よみ、つまり、死後の世界にも、同時に存在しておられる、というのです。皆さん、そんなことって想像できます？

いえ…、この詩篇139篇だけではありません。この聖書を読めば、天の神様が、如何に、偉大で…、聖く…、正しいだけでなく…、と同時に愛や恵み、憐みに満ちた御方であるかが分かります。どうぞ、皆さん、私たちの救いについても考えてみてくださいませ？…天の神様は、この救いの計画を、あのアダムやエバの時代から、そして、旧約聖書のアブラハムやモーセ、ダビデの時代を経て…、新約の弟子たち、また、パウロたちを通して、今の時代にまで語り続け…、救いの計画を完成させてくださったのです！こんなに偉大で…、こんなにも壮大な計画って、何か、他にありません？

天の神様は、そういったことを、すべて御計画し…、それを預言通り、寸分たがわずに、実践してくださったのです。果たして、それらは皆、私たちクリスチャンの空想上の思い込みか、何かなのでしょう？…いいえ！そんなことは、絶対に有り得ません！…だって、この聖書の教えは、ただ、私たちの空想上の教えではなくて…、実際に起こった「歴史」でもあるからです！そうですね！皆さん？

< 励ましの言葉 >

今日は、少し早いのですが、キリも良いので、ここで終わらせていただこうと思います。でも、今日、皆さんに分かっていただきたいことは、イエス様は、本当ならば、受ける必要の無かったバプテスマを、わざわざ受けてくださったということ、それは、現代に生きる私たちへの模範であったということです。…でも、考えたら、イエス様のバプテスマだけではありません。イエス様の受肉(=神であるイエス様が、人間となって、この地上に来てくださったこと)、あるいは、私たちの罪を、すべて背負って、あの十字架にかけて、私たちの罪の贖いをしてくださったこと…、それらはすべて、イエス様にとって必要であったのではなくて…、私たちに必要であったのです！私たちが救われるために必要だったから…、だから！イエス様は、あの十字架に、自ら進んで、向かっていってくださったのです！…果たして、私たちは、それに、どうやって報いることができるでしょう？どうぞ、クリスチャンの皆さんには、そういったことを考えていただきたいと思います。

そうして、まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん。イエス様は、私やあなたのために、この～

『イエス様のバプテスマ・2』

'20/07/05(礼拝再開！)

聖書箇所:マルコの福音書 1章 9-13節(新約 p.64)

実は、久しぶりに皆さんと集まって捧げる今日の礼拝メッセージを、どこのみことばから語るべきか、私なりにいろいろ悩んだのですが…、でも、私としては、前回…、礼拝を自粛する直前に語った時のメッセージが、“シリーズもの”で、まだ途中でしたので、正直、ずっと気になっておりました。そこで、インターネットで、私たちのメッセージを視聴して下さっている皆さんには、大変申し訳ないのですが、やはり、前回(3/1)に語ったメッセージの続きを、今日は皆さんと一緒に学んでいきたいと思っております。

ところで、前回の学びは、もう4ヶ月の前のこととなりますので、皆さんは、覚えて下さっているでしょうか？私たち、八田西 CC では、今年に入ってから、マルコの福音書を学び始めました。その1:1に記されてありますように、この福音書を書いたマルコは、『神の子イエス・キリストの福音のはじめ。』と言って、イエス様が送られた生涯を順番に書き始めてくれたわけです。

覚えて下さっています、皆さん？…このマルコは、このイエス・キリストの存在、あるいは、イエス・キリストの歩みこそが、『福音』…つまり、私たちにとって「最高に良い知らせ」である！「これは、私たちが、どうしても知らなければならぬ…、大切な教えである！」と言うわけでありませぬ。私たちは、そのイエス様がバプテスマ…、つまり、洗礼を受けられた時のみことばを学んでいる途中で、止まってしまっておりました。

命題: イエス様がお受けになったバプテスマは、どういったものだったでしょう？

そこで、今日は、今から約2000年前、イエス様がお受けになったバプテスマというものが、一体、どういったものであったのか？ということ、皆さんと一緒に学んで参りたいと思っております。そして、願わくは、このことを通して…、神様からのお言葉である聖書が、「イエス・キリストというお方が、どういった方であると教えてくれているのか？」ということ、皆さんに分かっていただきたいと思っております。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、マルコ 1:9-13 をお聞きください。そこには、このように記されてあります。

- 9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。
- 10 そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。
- 11 そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」
- 12 そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。
- 13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。

I・それは、謙遜の証しであった！(9節)

どうぞ、まずは、今読んだところの9節の部分に注目してください。もう、4ヶ月も前に学んだことですが、ここ9節では、イエス様が、あの先駆者ヨハネから、バプテスマをお受けになった、ということが記されてあります。…このことは、もうあまりに有名なので、皆さんも、よくご存じだろうと思っております。しかし、私たちが、そのことから、何を学び取ることができるのでしょうか？⇒それは、まず、このイエス様がお受けになったバプテスマが、“謙遜”の証しであった！ということなんです。

イエス様が、あのバプテスマのヨハネから、バプテスマをお受けになった…。先程も言いましたように、このことは本当に有名です。本当なら、そのことをもう少し詳しく教えてくれているマタイ伝を参照したいので

すが、その箇所は前回も参照いたしましたし、今日は時間の関係もあるので参照しません。でも、もし宜しければ、マタイ3章前半を開きながら、しばらくの間、お聴きください…。

まず、考えたいのは、この時、バプテスマのヨハネは、どのようなバプテスマを授けていたか？ということなんです。…彼の授けていたバプテスマは、何を証し(=証明)するものでしたか？⇒この時、ヨハネが授けていたバプテスマは、「悔い改めのバプテスマ」でありました。そうでしょ？…だから、バプテスマのヨハネは、ある時に、しっかりと悔い改めること“なく”、ヨハネからバプテスマを受けようとしていたパリサイ人たちが大勢やって来た時、「まむしのすえたち！誰が、必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか！それなら、まずは、悔い改めにふさわしい実を結べ！」と言って、パリサイ人たちのことを追いつ返されたのです。…つまり、このヨハネは神様の前に、しっかりと悔い改めるべきことを説いたのです。…そうでしょ？ヨハネが授けたのは、そのことを証明(=証し)するためのバプテスマであったのです。

だから、このヨハネが驚いたのは、自分のところに、何とイエス様の方から来られたからです！マタイ3章やマルコ1章を見れば分かるように、この時、ヨハネは、『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。』と言って、大変驚いていることが分かります。

…と言いますのは、このイエス様に、自分が授けるようなバプテスマは必要無いということ、ヨハネは、ちゃんと知っていたからです！だって、そうでしょ？ヨハネが授けていたのは、「悔い改めを伴う…、悔い改めのバプテスマ」であったわけで、イエス様には、悔い改めも…、罪も、無かったからです！

だから、ヨハネは、このイエス様について、こう証言しています、「このお方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方はきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」って…。皆さん、聞いてくださいました？「私は、イエス様の履物を脱がせる価値も無い！」とヨハネは言ったのです。この当時、履物を脱がせるのは、奴隷の役目でありました。つまり、このヨハネは、「私は、イエス様からしたら奴隷以下の存在である！いや、奴隷にもなれない！」ということをおっしゃっているのです！…つまり、イエス様というお方は、それほどまでに偉大な…、素晴らしいお方だと言うのです。…と言うのも、このイエス様こそは、マルコ1:8にあるように、『聖霊のバプテスマ』を私たちに授けて下さるようなお方だからです。聖霊のバプテスマ…、つまりは、救いです！罪の赦しです！

しかし、そんなイエス様が、わざわざ、私のところに来てくださった…。ヨハネが驚いたのも当然です。そうでしょ？…しかも、そのイエス様が、ヨハネに対して、「あなたから、わたしはバプテスマを受けたい…」とおっしゃるのです。ヨハネからしたら、全く意味が分からなかったというのは当然です。このことは、聖書全体が教えてくれていることですが、イエス様は、何者にも勝って偉大です！聖書は、イエス様こそが、真唯一の神であるということ、をはっきりと教えてくれています。…にも関わらず、イエス様は、同時に、謙遜でもありました。…特に、そのことを教えてくれているのが…、実は、マルコの福音書なのです。まあ、そういうことは、これから、追々、皆さんも分かっていくのだと思っております。

時々…、いえ、「歴史的研究」では、このイエス様は、かつて、バプテスマのヨハネの弟子であったと考えられています。…でも、それは本当でしょうか？皆さん！…皆さんも、よくご存じのように、神のお言葉である聖書は、全くそうは教えてはおりませぬ。いえ、全く逆のことを教えてくれています！そうでしょ？

歴史的研究家たちは、聖書に書かれてある“事象”…、つまり、表面的な出来事しか見えていないのです。「木を見て、森を見ず」という言葉があるように、いくら時間を掛けて聖書を読んでいても…、様々な出来事を知ってはいても、一番肝心の“本質”が見えていなければ、意味がありません。だから、聖書を研究していても、ある人たちは、その書かれてある真理に気づくことができず…、救いにあずかることができないのです。…私たちが同じです。もしも、私たちが、この聖書の教えに耳を傾けてはいても、その真理に気づくことが無ければ、救いに預かることはできません。…どうぞ、皆さんには、今日のメッセー

ジだけでなく、しっかりと、この聖書のみことばが、何を教え…、何を訴えているのか？ということをよく探求していただくことをお勧めします。

Ⅱ・それは、神の **みこころ** **にかなうものであった！(10-11 節)**

どうぞ、今度は、今日のみことばの内、10-11節をご覧ください。ここでマルコが教えてくれていることは、**イエス様のお受けになったバプテスマが、神の“みこころ”にかなうものであった！**ということです。そこには、こう記されてあります。

10 そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。

11 そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

●イエス様は、常に、父なる神様の **みこころ** に従われた！

どうぞ、ここ 11 節のみことばに記されてある…、天の父なる神様の反応に注目してみてください。ここ 11 節で、『**天から声**』が聞こえたということを、このみことばは教えてくれています。これは、まず間違いなく、天におられる父なる神様の声であると思われる。

この時、その天からの声は、バプテスマを受けられたイエス様に向かって、『**あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ…**』ということを言われました。このことから、イエス様が、ヨハネからバプテスマを受けられたということが、天の父なる神様のみこころにかなったものであったことが分かります。いえ、この時だけではありません。イエス様は、常に、父なる神様の“みこころ”に従われたのです。

そのことの…、1番象徴的なことが、あのゲツセマネの園での出来事です。どうぞ、できましたら、**ルカ 22:39-42** をお開きくださいます？ここには、イエス様が十字架にかかれる前夜、オリブ山のすぐふもとにあるゲツセマネで起こった出来事について記されてあります。『39 それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、弟子たちも従った。40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。41 そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころとおりにしてください。』」

⇒皆さんは、この時の状況をよくご存じですね？…果たして、イエス様は、十字架にかりたかったのでしょうか？…いいえ！イエス様は、本当なら、十字架になんてかかりたくはありませんでした。一体、誰が、好き好んで、十字架にかけられて…、耐えられないような痛みを経験しつつ、大勢の人の前で辱められて、苦しんで死んでいきたいなんて願うでしょうか！そうでしょ！…にも関わらず、イエス様は、なお、そこから逃げようとはなさらなかったのです！

一体、どうしてでしょう？…それは、イエス様が十字架にかかることこそが、天の父なる神様のみこころであったからです。そうじゃないと、私たち人間に救いの道が無かったからです！…いえ、そもそも、イエス様は、私たちの(罪の)ために、十字架にかかって、救いの道を備えるために、この地上へと遣わされた、約束の救い主であられたのです！

だから、イエス様の死を、弟子であったペテロは、こう証言してくれています。**I ペテロ 3:18**、『**キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。』**

⇒皆さん、聞いてくださいました？…イエス様の十字架の死は、悪い者たちの…、つまり、私たちの身代わりであったと言うのです。しかも、それは、私たちのことを神のみもとへと導くために、どうしても必要で

あったのです。実に、そのために、イエス様は、わざわざ、進んで、あの十字架へと向かっていってくださったし…、そのために、イエス様は、あの裁判でも、ご自分のことを一切弁護されなかったのです。

●イエス・キリストこそは、三位一体の神であられる！

どうぞ、もう1度、今日のみことばの 10 節に注目してみてください。このみことばは、イエス様がバプテスマを受けた後すぐに、「天が裂けて、まるで御霊が鳩のように、イエス様の上に下った」ということが教えられてあります。

多分、皆さんは、「三位一体」という聖書の教えをお聞きになったことがあると思います。正直、聖書の中に、「三位一体」という言葉そのものは書かれてありませんが、間違いなく、聖書は、そのことを教えてくれています。「三位一体」とは、「すべてを造られた真唯一の神様が、唯一でありながら…、3つの人格のようなものを御持ちである」という聖書の理解です。実は、今読んだ…、このみことばは、聖書の中でも数少ないみことばで、その三位一体なる神様がすべて、登場してくる珍しい個所なのです。

こんなことを、いちいち言う必要も無いでしょうけれども、この時に下ってきたのは、鳩ではありません。“御霊が鳩のように”下ってきたのです。そして、この御霊は、この後、12 節に書かれてある通り、イエス様のことを荒野へと導くのです。

ここで登場してくる、①天の父なる神様と、②イエス様、そして、③御霊とも言われる聖霊なる神様は、すべて真唯一の神様です。神のお言葉である聖書は、これら3種類存在しているように見える神様が、実は、唯一(=おひとり)であることを教えてくれています。…だから、私たちは、そういった神様の御性質のことを、「三位一体」と呼んで、理解するように努めているのです。

この三位一体について、もう1つ有名なのは、マタイ 28 章の「大宣教命令」とも呼ばれているみことばです。あそこで、イエス様は、こうおっしゃっておられます、『19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、20 また、あなたがたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』(マタイ 28:19-20)って…。

⇒ここでも、その三位一体なる神様のことが、短く、『**父、子、聖霊の御名によって…**』と表現されてあって、私たちがバプテスマを受ける&受ける時、そのバプテスマが、この三位一体なる神様の御名…、つまり、神のみこころに沿ったものであるということを宣言し、また、証しすべきことが教えられてあります。

でも、皆さん、気づいてくださいます？…実は、ここで、イエス様は、私たちクリスチャンがバプテスマを受ける時、「父、子、聖霊の御名によって、バプテスマを受けなさい！」ということをおっしゃっているわけですが…、ここでは、父と、子と、聖霊とが、全く同じように…、並列に並べられていますでしょ？実は、このことは、原語のギリシヤ語を見てもそうなのですが、まるで、父と、子…、つまり、イエス・キリストと聖霊とが、同等、あるいは同格のように表現されてあるのです。

実は、こんなことは、この当時のユダヤでは、有り得ないことだったので。…どうぞ、皆さん。もしできましたら、ヨハネ 5:16-18 を開けてみてください。…ここでは、イエス様が安息日に癒しをされたことで、ユダヤ人たちと問答になったことが記されてあります。『16 このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。17 イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」18 このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。』

⇒皆さん、分かってくださいます？この時、イエス様は、天の父なる神様のことを、この当時、大勢のユダヤ人たちが言っていたように、「私“たち”の父」とは言わずに、『わたしの父』と言っただけで…、当時のユダヤ人たちは、「このイエスは、自分を神と等しくしている！」と言って、大激怒したのです。もちろん、イエス様は、単なる言い間違いなどでは無く、意識して、そう言われたわけです。でも、皆さんに分かっていただきたいのは、この当時のユダヤ人たちは、それほどまでに、天の神様のことを、特別視して…、何者たりとも、それと近い存在であることを認めようとはしなかった、というわけなのです。

しかし、そんな時代にあって、イエス様は、ご自分と天の神様とが一体である(ヨハネ 10:30)とか…、「わたしを見た者は、神を見たのも同然である¹」とか…、先程の大宣教命令でも、父なる神とご自分、そして、聖霊なる神様とを同格に置いて、その御名によって、バプテスマを授けなさい！ということをお教えされたのです！…それが、この当時、如何に、大それたことであったか、皆さんは分かってくださいます？でも、それこそが、イエス様の…、また、聖書全体のメッセージなのです。…時々、エホバの証人たちが、「イエスは、1度たりとも、ご自分が神である！」と明言したことは無いと言いますが、決して、それは、聖書の正しい理解ではありません。イエス様は、父なる神様と比べて、何ら劣ることが無い…、正真正正の神様であり、それゆえに、罪も無く、完全なまでに、その父なる神様のみこころに従われたのです。

Ⅲ・それは、**献身**の証しであった！（12-13節）

最後、手短かに、3つ目のポイントを見ていきましょう。どうぞ、もう1度、今日のみことばの12-13節をご覧ください。そこで、マルコが教えてくれていることは、このイエス様のバプテスマが、“献身”の証しであった！ということです。そこには、こう記されてあります。

12 そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。

13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。

●イエス様は、**公生涯**の初めに、バプテスマを受けられた！

イエス様は、ヨハネからバプテスマを受けてすぐ、公生涯を始められました。…言わば、バプテスマは、イエス様にとって、ご自分のことを“公”にして、救い主としての働きを本格的に始める合図のようなものであったのではないのでしょうか？…そうして、イエス様は、御霊に導かれて、その後すぐ、荒野へ行かれて、40日間の断食の後、サタンからの誘惑に勝利されます。ここに記されてある、『野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。』ということは、荒野での40日間、御使いたちが、イエス様のことを守っていたので、イエス様が獣たちに襲われることは無かったということでしょうか…。

マルコ自身は、今日のみことばで、そのことについて触れていませんが、イエス様は、サタンからの誘惑に対して、見事に勝利されました。そのことについては、マタイ4章で詳しく説明されてありますので、今日のところは触れません。…しかし、そのことでも明らかなのは、イエス様は、あのサタンでさえも勝利できないようなお方であったということです。…と言いますのも、皆さんもご存じのように、エデンの園で、アダムとエバは、サタンの策略にまんまと引っかかって、罪に陥ってしまったでしょ？…しかし、イエス様は、当然のことながら、彼らとは全く違って…、そのサタンの策略に陥るようなことは無かったのです。

¹ ヨハネ14:9、『ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。』

●現代、多くのクリスチャンたちがバプテスマに対して持っている、**間違ったイメージ？**

今日、最後に、皆さんと分かち合いたいのは、現代、多くのクリスチャンたちがバプテスマに対して持っている、“間違った”イメージについて、です。もちろん、イエス様が受けられたバプテスマと、私たちが受けたバプテスマとは、幾つかの点で違って…、必ずしも、同じではありません。

でも、多分、皆さんは、こんなみことばもご存じのはずです。ヨハネ13章で、イエス様が弟子たちの足を洗われた後に、こうおっしゃいました、『**わたしがあなたがたにたとおり、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。**』(ヨハネ13:15)って…。また、使徒ペテロは、クリスチャンたちが不当な苦しみを受けても、それを耐えるべきことについて、こう教えてくれています、『**あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。**』(1ペテロ2:21)

⇒皆さん、私たちは、あのイエス様の証しをすべく…、神様の特別なみこころによって、この世から召し出されたのです！…バプテスマというのは、1ペテロ3章のみことばによれば、「私たちの肉体の汚れを取り除くものではなくて…、正しい良心の神への誓いである」と教えます。言わば、神様への献身の証しなのです！

そのことから、私たちが受けるべきバプテスマは、信仰のスタート地点でも、ゴールでもありません。そうではなくて、聖書的な正しいバプテスマというのは、私たちの信仰の証しであり…、もう決して、私たちは、信仰を棄てません！イエス様から離れません！という献身の証しであるべきなのです。そうでしょ？

しかし、現代にあって、一部のクリスチャンたちは、何だか、バプテスマを受けたら、「もうこれで、一人前のクリスチャンになった…。私は救われたから、もう教会に通わなくて良い…。」というような勘違いをして、バプテスマを受けた途端、教会に来なくなってしまう例が少ないながらもあります。実際、私たちの教会でも、それに近いことが過去ありました。…また、つい最近、私が耳にしたのは、どこかの教会で、「バプテスマ記念」でプレゼントされた聖書が、すぐに売りに出されていたという話です。それだけではありません。例えば、あの岡田先生だって、その昔は、それに近い状況だったということを聞いています。しかし、もしも、その人が受けたバプテスマが、聖書的なものであったなら…、いえ、その人が本当に救われていたのなら、その人が信仰を棄ててしまうなどというのは有り得ないのです。そうでしょ！皆さん！

<励ましの言葉>

もう、今日は、メッセージを終えないといけませんが、イエス様は、本来ならば、受ける必要の無いバプテスマを受けてくださいました。いえ、バプテスマだけではありません。本来ならば、イエス様は、十字架にかかるどころか、この地上に来る必要さえ無かったのです！…にも関わらず、イエス様が、この世に来て、あの十字架にかかって、死んで、よみがえってくださったのは、私たちが救われるためには、それしか方法が無かったからです！

私やあなたを救うために…、私たちが救われるための道を備えるために、イエス様は、この世に来てくださったのです。イエス様が受けられたバプテスマは、このイエス様は、普通では考えられないほど、謙遜であり、…と同時に、父なる神様のみこころに従い…、なおかつ、献身的な…、つまりは、喜んで、自分のいのちさえ捧げてくださいようなお方であったことを証ししてくれています。実際、イエス様は、その後の生涯でも、そういった姿勢を続けていってくださいました。

どうか、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんも、このイエス様にならった歩みをして、このイエス様の良き証し人として、生きていってくださいませよう、お勧めいたします。そうして、まだ、このイエス様をお信じになっておられない皆さん。天の神様は、あなたを救うため、このイエス様を遣わして、あなたが犯した罪の清算をなしてくださったのです。どうか、1日も早く、手遅れにならない内に、このイエス様のことを、真の神、あなたの救い主として、信じ受け入れていただきたいと思えます。最後に、お祈りをもって～